

第3回一関市水道事業経営審議会 会議録

1. 会議名 第3回一関市水道事業経営審議会

2. 開催日時 平成27年8月11日(火) 午後2時から4時まで

3. 開催場所 一関保健センター会議室3・4

4. 出席者

(1)一関市水道事業経営審議会委員 11名

阿部弘子委員、金野幸造委員、鈴木東委員、二階堂満委員、石川トシエ委員、
及川豊委員、金野健男委員、昆野洋子委員、齋藤祥三委員、阿部節子委員、
千葉淳委員

※欠席委員 5名

鈴木美感子委員、千葉とき子委員、三浦富久子委員、海野正之委員、江口扶委員

(2)市出席者

菅野佳弘上下水道部長、金田賢上下水道部次長兼水道部次長、千葉隆水道部次長、
那須野長己浄配水課長、佐藤隆博下水道課長、千葉彰千厩支所建設水道課長、
榊原勇東山建設水道課長、北條敏方室根支所次長兼建設水道課長、
齋藤祐二川崎支所建設水道課長、小野寺教勉藤沢支所建設水道課長、
熊谷善孝業務課長補佐兼経理係長、小島宣浩給水課長補佐兼工務係長、
蘓武時光簡易水道課工務係長、畠山勤花泉支所建設水道課長補佐兼上下水道係長、
小岩雄大東支所建設水道課主任主査、小野寺勝也主査、金野亨主任主事

5. 審議事項

(1) 一関市水道事業会計の財政見通しについて

(2) 施設更新需要への対応について

(3) 水道未普及地域の対応について

6. 公開、非公開の別 公開

7. 傍聴者の数 なし

8. 所管部署 水道部業務課

9. 会議の内容

○ 会長あいさつ

本日で3回目の審議会の開催であるが、人口減少や水道施設の老朽化など、いろいろな問題が山積している。水道事業は重要なインフラであるので、皆さんで自由闊達なご意見をいただき、よりよい水道ビジョンが作成できるようによりしくお願いしたい。

○ 審議

(1) 一関市水道事業会計の財政見通しについて

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑・意見を求めた。

(2) 施設更新需要への対応について

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑・意見を求めた。

【質疑・意見等】

① 審議会委員質疑

地域ごとの人口減少の推計を資料に使用しているのか。

・ 事務局

今回の財政見通しは市全体の人口の推計をもとに料金収入の見込みを立てているため、地域ごとの見通しは用いていない。現状では市が作成した市内の地域ごとの人口推計というものはない。市全体の人口推計については、国立社会保障・人口問題研究所が発表した一関市の人口推計の数値を用いている。

② 審議会委員質疑

見通しの最終年度である2046年には人口は何人ぐらいになっているか。

・ 事務局

国立社会保障・人口問題研究所のデータによれば、5年毎の推計のため平成47年のデータになるが、8万9千人ほどになる。

③ 審議会委員質疑

現状で、人口減少が進んでいる地域はどこか。

・ 事務局

資料がないため、正確なところは答えられないが、一関地域以外から一関地域への市内転居などを考慮すると、一関地域が人口の減少率が最も低く、それ以外の地域はみな同程度だと認識している。

④ 審議会委員質疑

高齢人口が多いと水の使用量も減少する考え方もあると思うが、見通しにおいて高齢化率を考慮したか。

- ・ 事務局
今回の見通しでは高齢化率は考慮していない。
- ⑤ 審議会委員質疑
- 一関市のように人口減少と水道施設の老朽化が課題となっていて、その課題を乗り越えているいい例が全国にないのか。
- ・ 事務局
急激に進んでいる事例のため、いい例はない。
検討段階においては、30年間で更新費用1,000億円という試算も出てきているが、今回の資料にある毎年度の更新費用24.8億円というのも、30年間で750億円ほどの費用を要するものとなっている。これをどのように乗り越えるかが知恵の出どころである。なお、財政見通しの資料の中にある料金改定率については、このとおりに料金を改定するものではなく、不足する資金の全てを料金に求めた場合はこのようになるという理解をいただければと思う。
- ⑥ 審議会委員意見
- 住宅を建てるときに、建てる場所をある一定の区域に集中させるような方策も視野に検討する時代も遠くないのではないか。
- ・ 事務局
国土交通省が提唱しているコンパクトシティがそれに当たると思う。コンパクトシティが実現できれば、インフラ整備及び管理において効率が良くなると思うが、実現には様々な課題がある。
- ⑦ 審議会委員意見
- もっと大きな枠組みで経営すれば、経営の効率化が図られる場合があるのではないか。
- ・ 事務局
県内では、北上市・花巻市・紫波町が岩手中部水道企業団として水道事業の広域化を行っている。一関市の場合を考えると、隣接事業体との条件の違いや県境など様々な面で課題があるが、広域化は大きな検討材料のひとつだと認識している。
- ⑧ 審議会委員質疑
- 上水道と簡易水道が統合するが、施設も統合するのか。
- ・ 事務局
基本的には水道施設はこれまでどおり。事業名称としての簡易水道がなくなるだけである。
- ⑨ 審議会委員質疑

上水道事業が簡易水道事業と統合するとますます経営状況が悪くなると思うが、統合を拒否することはできるのか。

介護保険事業のように広域的に水道事業を運営していかないと破綻するのではないかと考える。広域化を検討課題にするべきだと思う。

・ 事務局

上水道事業と簡易水道事業の統合は経営状態を悪化させる一面もあるので、それを取りやめることができないか考える気持ちも理解できる。

広域化については、検討課題のひとつとする。

⑩ 審議会委員意見

施設の老朽化に伴う更新事業で資金が不足し、全てではないにしろその不足分が料金に求められるのをただ待つのではなく住民としてできることを模索するものひとつの案だと思う。

⑪ 審議会委員意見

いい話ばかりを市民に周知するのではなく、施設の老朽化に伴う更新需要の増大により経営が厳しくなっていくこの実態を市民と情報共有する必要があるのではないかと。

⑫ 審議会委員意見

具体的には民間の力を借りながら事業を進めていったり、費用はかかるが外部の経営コンサルタントなどからアドバイスをもらったりしながら経営を行うことも経営の効率化につながるのではないかと。

⑬ 審議会委員意見

人件費という点でいえば、広域化した方が経費を抑えることができる。

⑭ 審議会委員意見

広域化によって、逆に修繕費等の経費がかかり増しするパターンも考えられるのでは。

老朽施設は更新しなければならないが、更新の際には給水エリアを縮小するという考え方を持ってこないと対応できない状況になってしまうのではないかと。

(3) 水道未普及地域の対応について

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑・意見を求めた。

【質疑・意見等】

⑮ 審議会委員質問

小梨地区への給水方法は、藤沢地域からの給水を想定したシミュレーション

か。黄金山を水源とした場合を想定したものか。

- ・ 事務局

示しているシミュレーションは管路のみを整備した場合のシミュレーションである。つまり、藤沢地域又は千厩地域からの給水を想定したもの。他方、室根地域については、新たに水源を設け浄水施設や配水池を含めて整備した場合を想定している。

⑯ 審議会委員質問

更新事業に多額の費用を要することが見込まれる中、新たなところに水道を引くというのはなかなか難しいと思うが、未普及解消事業は少しずつでも進んでいくというような状況なのか。

更新にも多額の費用がかかるし、一般会計にも未普及解消事業をサポートするほど金がないということは分かるが、水道の普及状況にあまりにも地域ごとに差があるので、同じ市民なのだから同じような条件に早くもって行ってほしい。

- ・ 事務局

考え方としては、現在の未普及地域に一気に水道を整備するというのは難しいので少しずつでも進んでいけばいいと思っている。ただし、費用や財源のこともあるので、これから検討しながらということにはなる。

⑰ 審議会委員意見

給水区域ではあるが水道に接続していない家の割合はどのくらいか。

- ・ 事務局

全市分の正確な数字は答えられないが、例えば舞川地区では整備済み戸数 438 戸に対し 271 戸が接続しているという数字はある。また、室根の折壁地区では整備済み 560 戸に対し 464 戸が接続しているという数字もある。

⑱ 審議会委員質疑

接続していない家があるということは、せっかく整備した分の投資が無駄になっている。水道を整備する際には、該当の世帯に対し、必ず水道に接続するという念書のようなものをもらう方法はとれないか。

- ・ 事務局

水道への接続を促進する方策としては、新規に整備する区域の方々に給水装置工事を共同で行うことを目的に組合を作っていただいて接続を促しているが、一部においては、接続しないお宅もある。今後においては、接続を約束する書面を取り交わすなどの方策が必要になってくるかもしれない。

⑲ 審議会委員意見

高齢化世帯が多くなると、私たちの世代でこの家は終わりだからということ

で水道に接続しないという例も実際に聞いている。組合や地域の中で、次の世代のためにということで、このような方々にも水道を接続してもらい取り組みが必要だと思う。

午後 4 時閉会